

## 第68回病診連携委員会要録

日 時 平成27年9月28日(月) 午後7時45分  
場 所 浪速区医師会 会議室  
出席者 浪速区医師会 : 6名  
南 医 師 会 : 2名  
愛 染 橋 病 院 : 2名  
育 和 会 記 念 病 院 : 1名  
NTT 西日本大阪病院 : 1名  
大 手 前 病 院 : 1名  
大 野 記 念 病 院 : 2名  
四 天 王 寺 病 院 : 2名  
千 本 病 院 : 2名  
多 根 総 合 病 院 : 1名  
富 永 病 院 : 2名  
内 藤 病 院 : 2名  
なにわ生野病院 : 1名  
日 生 病 院 : 1名  
成人病センター : 3名  
地域包括支援センター : 1名  
居宅介護支援事業者連絡会 : 1名  
浪速区医師会事務局 : 1名

今回は成人病センター、千本病院にお越しいただきました。

### 議 題

1. 第67回病診連携委員会報告について  
前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。
2. 大阪府立成人病センターの新しい外来システム「Qin外来」の紹介(左近病院長)  
成人病センターの特徴として5年生存率は非常に高く、全国で4番目の高密度医療をおこなっているものの、在院日数が長く外来から入院に至るまで、また治療後退院するまでの期間が長いという事が問題であった。つまりは限られた患者だけを診ていたことにもなり、できるだけ多くの患者に治療を受けていただいた方が良いのではと考えられた。そこで入院のフローを良くするため、まず、入院期間の短縮(パスの見直し)を行い、入院時の検査や各種説明を外来レベルで行うことにより、紹介されてから手術するまでの期間を可能な限り短縮しようとする試みがなされた。目標としては紹介から手術までを2週間以内に行いたいものの、現在はまだそこまでは至っていない。具体的には紹介があつてからすぐに検査の予約、治療方針などを決定する事やがん救急との連携、手術室の効率的な使用などがなされるようになった。しかし現実的には院内からは反発も多く、特に医師からの抵抗が強かった。粘り強い説得と患者からの感謝の手紙を糧に徐々に理解が得られるようになり、2年を経て成果が上がってきている状況である。安心、治る、遅いから安心、治る、速いに変わりつつあるとのこと。なお、平成29年3月に大手前地区に転居する予定である。
3. 大阪府立成人病センターと東成区医師会との医療連携(東山副院長)  
成人病センターはがん専門病院であるため癌の診断、初期治療、再発治療が望まれる。患者からは専門的な医療を求められ、医療連携としては経過観察を含めた継続加

療を実地医に依頼する逆紹介と紹介ということになる。

平成 26 年度の実績としては、7600 件中消化器関連 23%、肝胆膵関連 14%、呼吸器関連 10%、乳腺、婦人科、泌尿器、頭頸部、整形という順で紹介がなされている。地区別では東大阪と城東区がほぼ同率で多く、東成区が 7 番目、浪速区に至っては 22 番目くらいである。また 10 人に一人は近畿外から紹介されている。近畿件別に見てみると、大阪市として 45%、大阪府としては 75%の紹介である。一方逆紹介としては 2500 件あたり、経過報告 35%、併存症 25%、緩和・在宅関係放射線療法なども含まれている。癌以外での疾患に関して地域の開業医に依頼していることが多い。しかし現実的には各種背景よりうまく連携することは難しい。平成 25 年度から連携登録委制度を開始しており浪速区からは久保田先生が登録されている。定期的に講演会も行われているので奮って登録していただきたいとのこと。東成区との病診連携については、症例検討会や在宅医療の件、逆紹介した症例の症例報告・検討会を行っている。平成 20 年より開始されており、年 3 回開催されている。また今後転居後は中央区になるため中央区医師会も含めた会にしていく予定である。

4. 本会の在宅医療連携の現状について  
ブルーカードの分析利用について（資料参照）

5. ブルーカードの動向

ブルーカードの登録件数（合計 613 件、浪速区内の医師より 559 件、他地区の医師から 54 件、使用状況（のべ件数 全例で 493 件、浪速区 465 件、他地区で 28 件、9 月 1 日からのカード動向 30 件（新規 13 件、更新 10 件、入院 5 件、帰宅 2 件、中止 3 件、退院 4 件）

6. その他  
なし。

次回会議予定 平成 27 年 10 月 26 日（月）午後 7 時 45 分～